

## 2019 年度理事長所信

2019 年度 一般社団法人 安来青年会議所 スローガン

# 『千里之志』

～次代を想像し、行動をしよう～

第 53 代 理事長 大和 晃介

### 2019 年度基本方針

1. 次代を想像する地域社会づくり
2. 次代を想像する青少年育成
3. 次代を想像する資質向上と会員拡大

#### 【はじめに】

昨今の日本は人口が減少し続けています。また、地方から東京への一極集中が年々進んでおり、地方に留まる若者はますます少数となっています。我々の活動の本拠地である安来市は島根県の中でも松江、益田につぎ人口減少は少ない市ですがこの 5 年間で 2200 人以上が減少しており、この人口減少に歯止めをかけなければなりません。また、地方人口減少により地域の経済規模が縮小し、経済的に余裕のない企業が増えれば、活気がなくなり若者から見ても魅力のない地域となってしまう、将来を担う子どもたちはこの地域に対し消極的に考え、その結果、心が乏しい大人に成長してしまいます。我々安来青年会議所の会員の多くは、地域の方々と相手に経済活動を行っている青年経済人です。当然我々の仕事や生活にも影響が出てきますしこのままでは我々の運動に理解があっても参加してくれる新しい仲間を見つけることが難しくなってしまいます。

では、我々に何ができるのでしょうか。我々は、明るい豊かな社会の実現を目的とした団体です。我々が明るい未来を想像しアクションを起こすことでこの地域を変えていかなければならないのです。「地域の若者と交流し、地域の活性化のための方策を共に考え、実行する。」「心の豊かさを成長させ将来を担う青少年育成を行う。」「会員の資質を向上させることによって、会員拡大に繋げる。」一つひとつは小さなことです。しかし、皆で取り組んで積み重ねれば、大きな力となります。

会員一人ひとりがこれらのことに全力で取り組み、活動の輪を広げていけば、より良い地域を実現できると確信しています。

私が青年期を生きた平成は 31 年を以て終わりを迎えます。この日本も次代へ移る中で我々も創立 50 周年の場で安来ビジョン「～Bridge to the Future～」を打ち出し 3 年目を迎え更なる発展を目指し、志高く運動を行うことをお約束します。

#### 【次代を想像する地域社会づくり】

安来市のみならず日本全国でみられる人口の都市部集中化により人口流出が進み、更には少子高齢化などの要因により地域産業の衰退が進んでいます。この安来市も 2009 年には 1,448 社の企業数がありました。しかし、2014 年には 1,176 社と 272 社も企業数が減少しております。(RESAS より) 理由としては倒産や後継者不足によるものが大半を占めていると思います。地域産業の衰退に歯止めをかけるためにも我々が動き出さなければなりません。現状、安来には大学がなく大都市に比べ就職先も限られている環境であるため、高校を卒業すると一度は安来を離れるケースが多くあります。これは悪いことではなく、個人一人ひとりの経験としては素晴らしいことです。私が問題だと思うのは一度出て行くと、帰ってこないということです。大学を卒業して地元に戻っても就職先がない、そしてやりたい職業が安来にはない、また都会暮らしの利便性に魅力を感じている等理由は個々に存在します。

しかし、このままでは安来の若者は帰って来ることなく、まちが衰退し、企業も縮小を免れません。そのためには、高校を卒業して安来を離れる前に安来の歴史や伝統芸能と触れ合う機会を提供していき、これからの社会に羽ばたいていく若者たちの郷土愛を醸成します。そして地域産業の現状と向き合い地域未来を考えることで、今以上に安来の未来に新たな可能性を見出し、結果この地域の次代の担い手を増やし、地域産業の衰退に歯止めをかけることこそが安来の産業が発展することに繋がると確信しています。

#### 【次代を想像する青少年育成】

どの地域においても子どもは地域の未来であり、たからです。子どもの頃の経験は将来に対して大きな影響を与え、そこで感じることや考えることで子どもたちの未来は大きく変わります。

時代の変化に伴いインターネットの普及で手軽に多種多様な情報を得ることができ生活面における利便性は向上しましたが、向き合い方次第では子どもたちの成長に良い影響を与えることばかりではありません。

その理由の一つとして子どもたちが目で見ただけではなく実際に触れる機会が

減っているからという点が挙げられるのではないのでしょうか。自らが外に出て体を動かし自然に触れる機会を作ることで心の豊かさを養いながら成長することができ、その機会が多ければ多いほど実体験から得る達成感を感じ、行動していく自発性や何事にも挑戦しやり遂げようとする挑戦心が育まれるのです。また、昨年はOMO I Y A R I 音楽会を通して保育所の子どもたちに思いやりの心を学んでいただきました。このOMO I Y A R I 音楽会ではまだ幼少期で集団生活を行い始めて間もない小さな子どもたちに「思いやり」の心を育むことで純粋に親切な心から出る行動ができ、なんの見返りも期待せず自分が持っているものを分かち合い周囲への繋がりを持つことができる青少年の育成に繋がると確信しています。2019 年度は情報と自然豊かな安来のそれぞれの利点を活かし我々がお手本となり将来を担う子どもたちの個性を活かし尊重し合うことで互いの力を社会のために役立てていける青少年育成を目指します。

#### 【次代を想像する資質向上と会員拡大】

会員の減少は、安来青年会議所の抱える大きな問題で、近年言われ続けていることであり、会員拡大が喫緊の課題です。会員拡大にとって何が一番大事かについては様々な意見がありますが、私は青年会議所が魅力的な運動を行い、各会員が青年会議所活動を心から楽しみ、充実感を得ることが最も重要だと考えます。魅力的な運動を行っていない団体や、所属している会員が充実していない団体には新たな同志は集まりません。まず、我々が魅力溢れる例会や事業を企画・実行し、充実した青年会議所ライフを送りましょう。自らの会員としての資質の向上を行うことによりその魅力が伝わり新たな仲間にも初めて伝わるのです。

また、安来青年会議所は新たな歴史を刻んでいきます。そこには絶えず多くの人に関わる中で会員が多くいなければなりません。10 年後、20 年後に明るい豊かな社会の実現を行うために今からしておかなければなりません。私は、この青年会議所に多くの学びを得るために入会いたしました。それは、人として一社会人としての成長に繋げるためです。入会する目的は皆一緒ではないかもしれませんが、まちづくりや青少年育成を通じて安来の未来を明るく語れる仲間を増やすことを目的として会員拡大を行います。私は青年会議所が 40 歳と限られた時間の中で社会人として成長できる場と考えます。仲間たちとともに目的を持ち実行し検証を行いアクションに繋げる。この PDCA を皆が繰り返し行うことで会員一人ひとりの資質向上に繋がると確信しています。青年会議所運動は過去も今も未来も真っ直ぐ素直な志を持って行っています。だから決して諦めず資質向上と会員拡大を行います。

## 【結びに】

人は誰もが限られた時間の中で生きていきます。何も考えなくとも、何も行動しなくとも時は刻一刻と過ぎ、一生が終わってしまいます。それならば、我々青年は一瞬一瞬に己の志を込め、後悔のないよう全力ですべてに挑戦し続けることが青年としての理想の姿だと言えます。この真っ直ぐな情熱と支えてくれる人への感謝の心を忘れることなく千里先にある未来に向かい一歩を踏み出し、青年としての英知と勇気と情熱をもって、地域の更なる発展と未来を目指し明るい社会の実現をすべく運動していきます。安来青年会議所の第53代理事長として、誠意を持って行動することを誓い理事長所信とさせていただきます。